

【地域の概要】

- 町域の95%以上が市街化区域で、各々の農地が宅地や工業用地の中に点在し、効率的な農作業が行われにくくなっている
- 農地面積は約193haあるが、宅地開発が進み、農地面積が減少するとともに、農業者の高齢化と後継者不足が同時に進行しているため、耕作する農家戸数が減少している
- 休耕状態や管理不全の農地が多く、有効な利用方法の検討及び解決に向けた取り組みの推進を行う必要がある

①取組開始前の状況や課題

岐南町農業振興協議会の開催

○令和2年度に策定した岐南町農業振興基本計画に基づき、都市農業を振興し、遊休農地の解消・発生防止に繋げるため、令和3年度から岐南町農業振興協議会を継続的に開催

○令和7年度に耕作され有効利用される農地を108ha確保を目指す

○農地の有効利用の方法として、農業振興に繋がる取り組みを実践する農業者の事例を参考に、横展開や拡大を進める

○令和4年度まで、①市民農園、②担い手と連携した新規作目生産（マコモタケ・ジャガイモ）、について協議し、農地所有者へのアンケートなど進めてきた

○上記2つについて、更なる農業者へのPR、実施する場合のサポートなどを検討していく

②取組内容

第1回農業振興協議会（令和5年6月）

○令和5年3月に水田営農計画書と併せて、農地利用意向アンケートを408件を対象に送付。160件の回答があり、提案、協議会員のJA、担い手から個別にアプローチ。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 耕作していない農地の意向 | ▶ 耕作してもらいたい18件 |
| 市民農園開設の意向 | ▶ 開設したい2名・話を聞いてみたい10名 |
| マコモタケ・ジャガイモ生産の意向 | ▶ 話を聞いてみたい1名 |

町で開催されるイベントで来場者にPR（令和5年10月）

○町で毎年実施されるイベント「ぎなんフェスタ」にて、協議会として生産普及を進めるマコモタケ、ジャガイモ（インカのめざめ、きたかむい）を来場者に試食提供し、認定度アップを図った。

第2回農業振興協議会（令和6年2月）

○新規作目の生産に繋げるため、ジャガイモ2種、山芋、つるむらさき、紅葉苔の計5種を、協議会推奨作物として決定。
今後、店頭POPなどに表記し、協議会が推奨する作物としてPRしていく。

③今後の展開と方向性

アンケートによる生産者の発掘・拡大

○引き続き農業者にアンケートを実施し、インカのめざめをはじめとした高収益作物の生産を推奨していき、遊休農地、不作付地の発生防止に繋げていく